

第5学年〇組 国語科 学習指導案

日 時：令和〇年〇月〇日（〇）〇校時
学 級：第5学年〇組
場 所：〇〇市立〇〇小学校5年〇組教室
授業者：〇〇 〇〇

1 単元名（題材名） 伝記を読んで、自分にぴったりな人物の魅力を紹介しよう

（「百年後のふるさとを守る」光村図書 五 銀河、その他の様々な伝記）

2 単元（題材）の目標

○伝記を読むことによって、自分を支える言葉を見つけたり、新しい考え方に気づいたりすることができる。（知識及び技能(3)オ）

◎複数の本や文章を読み比べながら、伝記の内容や特徴を基に、自分の考えをまとめることができる。（思考力、判断力、表現力等 読むこと(1)オ）

○紹介したい人物を選び、伝記を読んで、その魅力や自分の考えをまとめていこうとする。（学びに向かう力、人間性等）

3 単元について

（1） 児童生徒の実態

本学級には、本が好きな児童も多い反面、本に親しんだり様々な種類の本を読んだりする経験が乏しい児童もいる。そこで、6月には「本は友達 広がる、つながる、わたしたちの読書」の単元で、5年生の友達が本を読みたくるように、お互いに本を推薦し合う学習活動を行った。本に帯を付けて、自分の本を相手に推薦したり、図書室にその本を置いたりすることで、5年生全体で本に親しむ機会を増やした。学習の中で、「読書には人や自分を変える力がある。」と気付いた児童や、「あまり読まなかった種類の本が読めてよかった。」と振り返る児童がおり、学びを全員で共有できた。まだまだ、複数の本や文章を読み比べて、自分の考えをまとめることには課題があるが、児童の読書に関する考え方は変容してきた。

「本は友達」を学習した後に、「千年の釘にいとむ」という伝記を読んだ。その際に、多くの児童が、職人の諦めない気持ちや努力し続ける人柄、または、釘の性質に着目した先人の知恵に注目することで、自分の考えをまとめることができた。しかし、中には、自分の考えをまとめることに課題が残った児童もいた。説明文の要旨を捉えたり、物語の全体から人物像を読み解いたりしたことから、自分の考えをまとめることに課題があると考えた。

そこで、物語文の「大造じいさんとがん」の学習では、大造じいさんの残雪に対する心情の変化や、大造じいさんの性格や行動、情景などの描写を読み解き、複数の叙述を結び付けて、大造じいさんの性格や考え方、生き方を想像して人物像を読み解くことをねらいに取り組んだ。その中で、人物像に関わる叙述を捉えるだけでなく、捉える人によって読み解く叙述が異なることにも気付くことができた。また、要旨を捉えるために、過去に教科書に出てきた説明文の要旨をまとめる学習活動を日常的に行った。要旨を捉えることで筆者が伝えたいことが分かったり、友達に本や文章を紹介する際に役立つことに気付いたりする児童の姿が見られた。

このようなことから、本単元においては、今まで身に付けてきた読みの力を生かして伝記を読み、自分の生き方について考えることができる児童の姿を目指したい。その中で、自分にぴったりな人物を決めたり、必要な情報を得たりするために、複数の本や文章を読み比べる力を育てていきたい。

（2） 教材について

本教材「百年後のふるさとを守る」は、筆者である河田恵昭氏が津波の被害から人々を守った浜口儀兵衛について著した伝記である。科学的な記述もあり、読者に防災意識を高めてほしいというメッセージが込められている。

本学習の「伝記を読んで、自分にぴったりの人物の魅力を紹介しよう」は、学習指導要領の〔知識及び技能〕第5学年及び第6学年の「(3) 我が国の言語文化に関する事項 オ 日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに役立つことに気付くこと。」及び、〔思考力・判断力・表現力等〕「C 読むこと」第5学年及び第6学年の「(1)オ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。」の指導事項を重点的に取り上げて指導する単元である。

本単元で仕組む言語活動は、特に「ウ 学校図書館などを利用し、複数の本や新聞などを活用して、調べたり考えたりしたことを報告する活動。」を具体化し、「複数の伝記や文章を読み比べながら、自分にぴったりの人物の生き方を通して、自分の考えをまとめることができる。」という目標を設定して活動を進めたい。

関連する図書資料として、様々な伝記を取り上げる。児童を対象としているものを中心に、描かれている人物の功績をクイズ形式にまとめたものや、いくつかの場面を漫画で描いたものなど、読書経験が乏しい児童にとっても興味や関心のもてる本が選択できるように用意しておく。その上で、本が決まれば、それぞれの児童が選んだ人物に関わる他の伝記を集めておくことで、複数の伝記や文章を読み比べられる環境を整備したい。

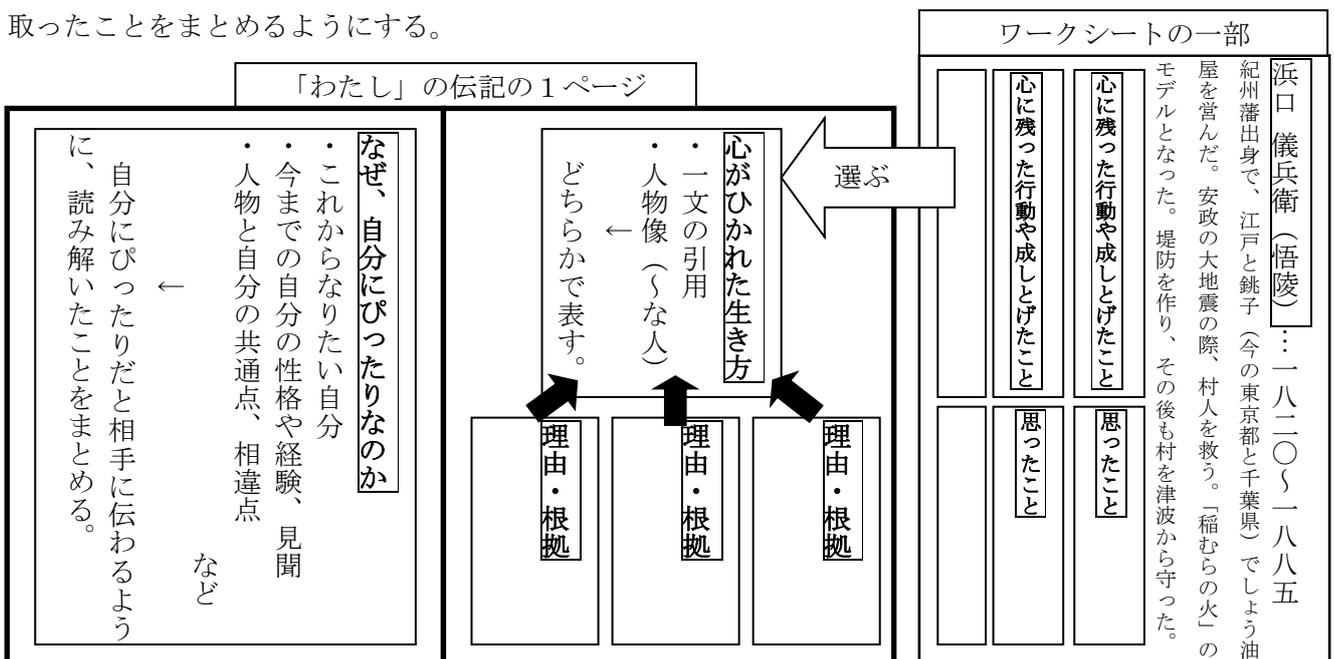
(3) 指導について

6月に、学校図書館を利用して読書をする5年生児童が少ないことに着目して、5年生同士が本を推薦し合うという活動の動機付けを行った。5年生児童の学校図書館の利用者数を増やす取り組みは、その後も継続している。本単元においても、伝記に親しむことで、5年生として学校図書館を積極的な利用を薦めている。

本単元のゴールは、伝記を読んで自分の生き方について考えたことを、学級の友達に紹介し合うことにした。次年度、最高学年6年生になる児童にとって、今の自分を見つめて、目標に向かっていく上で伝記や人物の生き方、ひいては読書がその支えになってほしいという願いをこめている。

単元に入る前に、一人一冊伝記を選び、自分にぴったりの人物について決められるようにする。教室にいつでも読めるように複数の伝記を置いておく。また、「百年後のふるさとを守る」の教材文や浜口儀兵衛により親しむことができるように、防災と関連付けて「稲むらの火」の話を紹介したり、現在の広村堤防の写真、稲むらの火の記念館のリーフレットや浜口儀兵衛の伝記などを掲示したりする。

第一次では、伝記を読むことが自分の生き方を見つめなおすきっかけになったり、役に立ったりすると実感させたい。ゴールイメージを明確にするために、教師のモデルを提示する。以下のような、「わたしの伝記の1ページ」にまとめて、伝記を紹介する。また、「百年後のふるさとを守る」を一読した後に、伝記の特徴にも気付かせたうえで、学習を始めたい。教師のモデルも、複数の本や資料から読み取ったことをまとめるようにする。



第二次では、共通学習材である「百年後のふるさとを守る」を、気になるところを中心に読み解いていく。気になるところとは、心に残ったことやその人物が成しとげたこと、疑問に思ったことなどである。心に残ったことやその人物が成しとげたことについて、自分の経験や考え方も関連付けて思ったことをまとめることで、自分の生き方について考えられるようにする。また、疑問に思ったことを解決するために、関係のありそうなところを再度読んだり、別の本から探して読んだりする読み方を、どの児童も経験できるようにしたい。そのためにも、複数の本を読み比べながら、必要な情報を読み解いていけるようなモデル（以下参照）を提示することで、この単元で目的に応じて伝記を読む力を身に付けさせたい。複数の本とは、例えば他の著者による伝記や、自らのことを書き記した自伝などである。その人物に関連する展覧会のリーフレットや講演会のチラシなど、可能な限りで関連のある文章も集めておきたい。また、複数の本を読み比べるとは、自伝や他伝を読み比べるだけでなく、他の人物の伝記を読んで相違点や共通点を見つけたりすることも含んでいる。友達が選んだ人物と自分の選んだ人物の共通点や相違点に着目して、自分の生き方について考えられるように指導する。このような活動を通して、複数の伝記を読み比べることで、人物の「生き方」をより深く学ぶことができるようになるということを実感させたい。

読み解いたことを基にして、自分が一番心ひかれた一文とその理由、または、自分が心ひかれた人物像とその根拠としてまとめていけるようにする。最後に、「なぜ、その人物が自分にとってぴったりなのか」について考えさせる。そうすることで、自分の選んだ人物の生き方を通して、自分の生き方について考えをまとめることにつなげたい。

第三次では、自分で選んだ伝記と、その人物の生き方を通して自分の生き方についてまとめた「わたしの伝記の1ページ」を、友達と紹介し合うことをゴールとする。共通学習材で学んだことを生かして、自分の心ひかれる人物について描かれた伝記を読み、自分の生き方について考えたことをまとめる力を身に付けさせたい。また、児童が、読書の魅力に気付いたり、読書の幅や考え方を広げたりするきっかけづくりをするためにも、紹介された本を読む機会を確保したい。

（４）「読み解く力」に関わる目指す児童の姿とその育成のための手立て

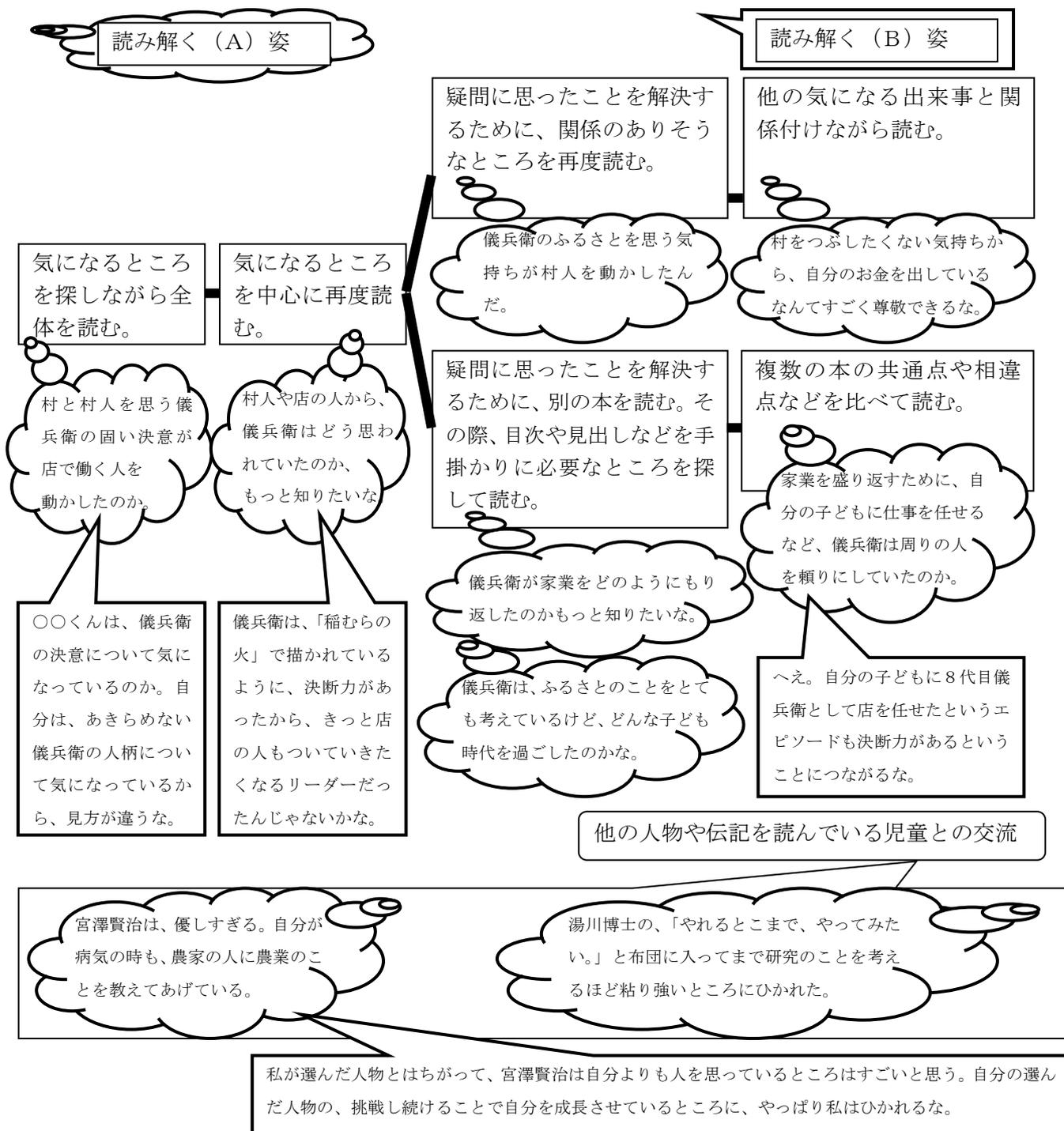
まず、「必要な情報を確かに取り出す力」に関わって、気になるところを探しながら全体を読む児童の姿を目指したい。例えば、心に残ったことや疑問に思うことを本や文章から読み解いている姿である。心に残ったことや疑問に思うことが書けそうにない児童には、複数の叙述を根拠にして人物の生き方について考えられるようにするために、児童に応じた分かりやすい全文シートを用意したり、初めて読んだ時や家庭学習においても気になるところを探しながら読む機会をもたせたりする。

次に、「情報を比較し、関連付けて整理する力」に関わって、複数の本を読み比べながら、自分が一番心ひかれた一文とその理由、または、自分が心ひかれた人物像とその根拠として、自分の考えをまとめることができる児童の姿を目指したい。その中で、複数の本を読み比べることの意義にも気付かせたい。そのためにも、教師が児童の発言や学びを受けて、他の伝記において、どう描かれているのかについて児童に投げかけることで、学びが深まるようにする。また、見出しや目次を活用することで必要な情報を読み解きやすくなることにも気付かせたい。そのために、児童が複数の本や文章を活用している場面を取り上げて、学級全体で意識付けられるようにする。

また、学び合う場面においても、友達との話合いを通して、どんな人物像に心ひかれたのか相談したり、どの一文が一番心ひかれるのかを検討したりする姿を目指したい。より深く学び合えるようにするために、一番心ひかれた理由についてまとめる児童のグループと心ひかれた人物像にまとめる児童のグループと分けて編成する。また、心ひかれた理由や人物像でも、できる限り異なる考えをもつ児童で交流できるようにする。

最後に、「自分なりに解決し、知識を再構築する力」に関わって、人物の生き方を通して、自分の生き方について考えたことをまとめることができる児童の姿を目指したい。また、共通教材において学んだ力を、自分で選んだ伝記を読む場面においても生かす姿も、再構築の力と捉えている。そのために、共通学習材での児童の学びをモデルとして、二次と三次の学習をつなぎたい。

以下は、読み解く力に関わる児童の姿を具体化して図式化したものである。



4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・伝記を読むことを通して、多様な視点から読書したり、読書の魅力に気付いたりしている。(3才)	・自分の生き方について考えるために、複数の本や文章を読み比べながら、人物の行動や考え方を中心に、人物の生き方についての考えをまとめている。(C才)	・見通しをもって学習に取り組む中で、進んで伝記を読んだり、その人物についての魅力や自分の生き方に対する考えをまとめているようにしたりしている。

5 単元の指導と評価の計画（全8時間）

次	時	主たる学習活動		指導上の留意点	評価規準
一	1	①伝記を読む意義や目的を共有するとともに、学習過程を考え、学習の見通しをもつ。		<input type="checkbox"/> 教師のモデル、活用したワークシートなどを提示する。 <input type="checkbox"/> 伝記の特徴について気付かせて、「百年後のふるさとを守る」の大体の内容や特徴について捉えられるようにする。	・見通しをもって学習に取り組もうとしている。
二	3	②「百年後のふるさとを守る」を読み、心に残ったことや疑問に思ったことなどをまとめる。自分の選んだ伝記を読み返す。 ③「百年後のふるさとを守る」を読み、心ひかれた浜口儀兵衛の生き方について読み解く。自分の選んだ伝記を読み返す。 (本時) ④自分の生き方について考えをまとめる。自分の選んだ伝記を読み返す。	自分にびつたりな人物に関わる本の中から、心に残ったことや疑問に思ったことを探しながら読書を行う。	<input type="checkbox"/> 教師のモデルを提示することで、見通しをもって学習できるようにする。 <input type="checkbox"/> 描かれている人物の行動や考え方を中心にまとめ、その後の交流に生かすことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 三次に学びをつなげるために、自分の選んだ伝記を読み返すようにする。 <input type="checkbox"/> <u>心に残ったことや疑問に思ったことを中心にグループや全体で交流することを通して、自分の疑問を解決したり、その人物の「生き方」について考えを深めたりすることができるようにする。</u> <input type="checkbox"/> <u>一番心がひかれた一文とその理由、または、心がひかれた人物像（〇〇な人）とその根拠について捉えることで、自分の考えをまとめられるようにする。</u> <input type="checkbox"/> 三次に学びをつなげるために、自分の選んだ伝記を読み返すようにする。 <input type="checkbox"/> <u>伝記に描かれている人物の「一番心がひかれた生き方とその理由」について、グループや全体での交流を通して、自分の生き方についての考えをもつことができるようにする。</u> <input type="checkbox"/> 三次に学びをつなげるために、自分の選んだ伝記を読み返すようにする。	・心に残ったことや疑問に思ったことなどをまとめている。 <u>(思判表Cオ)</u> ・複数の本や文章を比べながら、人物の生き方についての考えをまとめている。 <u>(思判表Cオ)</u> ・人物の生き方を通して、自分の生き方について考えている。 <u>(思判表Cオ)</u>
三	4	⑤選んだ人物の伝記を読み、心に残ったことや疑問に思ったことなどをまとめる。 ⑥選んだ人物の伝記を読み、心ひかれた生き方について読み解く。 ⑦自分の生き方について考えをまとめる。 ⑧選んだ人物の生き方	自分にびつたりな人物に関わる本の中から、心ひかれる一文や、人物像を読み解き、自分の生き方について考えるための読書を行う。	<input type="checkbox"/> 二次で読み解いたことをモデルとして、共通学習材での学びを生かして伝記を読むことができるようにする。 <input type="checkbox"/> 描かれている人物の行動や考え方を中心にまとめ、その後の交流に生かすことができるようにする。 <input type="checkbox"/> <u>心に残ったことや疑問に思ったことを中心にグループや全体で交流することを通して、自分の疑問を解決したり、その人物の「生き方」について考えを深めたりすることができるようにする。</u> <input type="checkbox"/> <u>一番心がひかれた一文とその理由、または、心がひかれた人物像（〇〇な人）とその根拠について捉えることで、自分の考えをまとめられるようにする。</u> <input type="checkbox"/> <u>伝記に描かれている人物の「一番心がひ</u>	・心に残ったことや疑問に思ったことなどをまとめている。 <u>(思判表Cオ)</u> ・複数の本や文章を比べながら、人物の生き方について自分の考えをまとめている。 <u>(思判表Cオ)</u> ・人物の生き方を通して、自分の生き方について考えている。 <u>(思判表Cオ)</u> ・多様な視点から読

	と自分の生き方について考えたことを友達と共有して、伝記を紹介し合う。	<u>かかれた生き方とその理由」について、グループや全体での交流を通して、自分の生き方についての考えをもつことができるようにする。</u> <input type="checkbox"/> 選んだ伝記と、まとめた「わたしの伝記の1ページ」を友達と紹介し合い、相手を選んだ伝記を読む時間をとるようにする。	<u>書したり、読書の魅力に気付いたりしている。</u> <u>(知・技(3)オ)</u>
--	------------------------------------	--	--

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

6 本時の目標（本時：3／8時間目）

心に残ったことや疑問に思ったことを中心に交流することで、自分の疑問を解決したり、人物の「生き方」について考えを深めたりすることができる。

7 本時の評価規準

複数の本や文章を比べながら、人物の生き方について自分の考えをまとめている。

(思考・判断・表現 読むこと(1)オ)

8 本時の展開

	主な学習活動等	指導上の留意点（・） 評価規準（□）
	1. 見通しをもち、課題を再確認する。(2分) ・自分の疑問を解決したり、人物の「生き方」について考えを深めたりするために、心に残ったことや疑問に思ったことを中心に交流することを確認する。 2. めあてをもつ(3分)	・既習の「千年の釘にいどむ」のモデルを教師が提示することで、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
	心に残ったことや疑問に思ったことを話し合っ、浜口儀兵衛さんの「生き方」について考えよう。 → 一番心ひかれた一文（「――。」）とその理由（～と、書かれているから。）を考えよう。 → 心ひかれた人物像（〇〇な浜口儀兵衛さん）とその根拠（～と、書かれているから。）を考えよう。	
	3. 共に学び合う①(7分) ・前時までに学習して、心に残ったことや疑問に思ったことを中心にグループで交流する。 4. 共に学び合う②(15分) ・グループで話し合っ疑問が解決するなどよかったことと、まだ分からないことなど困っていることを、全体で交流する。 5. 自分で考える①(8分) ・グループや全体での話し合いを受けて、心ひかれた浜口儀兵衛の生き方について読み解く。 6. 学習を振り返る(10分) ・今日はっきりしたこととなりた姿に近づけたかどうかを振り返る。 ・次時の学習の見通しをもつ。	・目次や見出しを使うことで必要な情報を得やすくなることを、児童の学びを取り上げて共有することで、複数の本や文章を比べられるようにする。 <input type="checkbox"/> <u>心に残ったことや疑問に思ったことを中心にグループや全体で交流することを通して、自分の疑問を解決したり、その人物の「生き方」について考えを深めたりすることができるようにする。</u> <input type="checkbox"/> <u>一番心がひかれた一文とその理由、または、心がひかれた人物像（〇〇な人）とその根拠について捉えることで、自分の考えをまとめられるようにする。</u> ・一番心がひかれた一文や人物像について、迷っていることがあれば、そのことについても振り返らせる。 ・次時に「なぜ、その人物が自分にぴったりなのか」を考えて自分の生き方について考えるという見通しをもてるように投げかける。

※「読み解く力」に関わる留意点や評価規準については、Aは下線、Bは波線で示す。

9 授業参観の視点

- ① 複数の本や文章を読み比べて、人物の生き方を読み解くことができたか。また、その手立てや支援は適切であったか。
- ② 共に学び合う場面の中で、自分の疑問を解決したり、心に残ったところを互いに比較、検討したりする話合いになっていたか。